

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-1	事業名	さっぽろ学校給食フードリサイクル				
担当	教育委員会総務部管理課(栄養指導担当) 田村 理都子 211-3833						
全体計画							
事業内容	学校給食を作る過程で発生する調理くずや残食などの生ごみをリサイクルセンターに運び堆肥化し、農家はその堆肥を使用して作物を栽培し、その作物を学校給食の食材に用いて、子どもたちが食するという学校給食を基とした事業で平成18年度2校のモデル校の取組から始めた。 学校教育において、フードリサイクルを活用し食育、環境教育を推進し実践的な取組を先行蓄積するための重点校を選定し実践するとともに、重点校での成果等の報告会を開催するとともに市民にこの事業の啓発を図る。 リサイクル堆肥を利用した作物を栽培し学校給食で使用していくことについては経済局(農務部)と農家の協力体制等について調整し推進していく。 生ごみの分別回収については環境局と収集体制等について調整し推進していくとともに、学校での生ごみ回収のための環境を整備する。			<年度別の事業内容>			
				<平成19年度> 関係者による連絡会議の開催、5校の重点校での取組、学校給食にリサイクル堆肥で栽培した作物を提供、生ごみ回収の推進、フォーラムの開催 <平成20年度> 関係者による連絡会議の開催、7校の重点校及び12校の栽培活動実践校での取組、学校給食にリサイクル堆肥で栽培した作物を提供、生ごみ回収の推進、フォーラム及びパネル展の開催、啓発資料及び教材の作成を行う <平成21・22年度> 関係者による連絡会議の開催、重点校及び栽培活動実践校での取組、学校給食にリサイクル堆肥で栽培した作物を提供、生ごみ回収の推進、啓発活動の推進			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	【関係者による連絡会議の開催】 2回(5月、12月) 【重点校(5校)での取組】 学校教育活動全体でフードリサイクルに取組み実践活動を通して食育・環境教育を推進した。 【学校給食にリサイクル堆肥で栽培した作物を提供】 どうもこし・・・使用校 重点校(5校) 期間 8月から9月(各校1回) レタス・・・使用校 272校 期間 7月から10月1週目(各校1回程度使用) 【生ごみ回収の推進】 生ごみ回収校 182校(60%) 【フォーラムの開催】 対象・・・学校関係者、保護者、市民等 開催日・・・平成20年2月22日 場所・・・教育文化会館 参加者211名			【関係者による連絡会議の開催】 2回(5月、12月予定) 【重点校(7校)での取組】 学校教育活動全体でフードリサイクルに取組み実践活動を通して食育・環境教育を推進する。 【栽培活動実践校(12校)での取組】 リサイクル堆肥を利用した教材園等での栽培活動及び栽培した作物の学校給食等での活用などを通して食育・環境教育を推進する。 【学校給食にリサイクル堆肥で栽培した作物を提供】 どうもこし・・・使用校:重点校(7校) 期間:8月~9月(1回) レタス・・・使用校:全校 期間:7月 9月(各校1回程度) 玉ねぎ・・・使用校:全校 期間:10月 【生ごみ回収の推進】 生ごみ回収校(予定) 229校(75%) 生ごみ収集体制整備のため容器等を調理校に整備予定 【フォーラム、パネル展の開催】 フードリサイクルの成果を普及啓発するため、学校関係者、保護者、市民等を対象に開催する。 【啓発資料及び教材の作成】 フードリサイクルの成果を普及啓発するためのパンフレットを作成し、市民、保護者、小中学校に配布予定。			
達成目標の状況							
項目		18年度末(現状)	19年度末(実績)	20年度末(予定)	21年度末(予定)	22年度末(予定)	22年度末(目標)
リサイクル堆肥を使用して栽培した作物の提供校数		2校	272校	全小中学校(305校)	全小中学校(305校)	全小中学校(305校)	全小中学校
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 重点校では、地域の方や保護者の方々が栽培の指導を行ったり栽培活動に参加するなど、学校を中心に取組が拡大している。 重点校、栽培活動実践校で使用するリサイクル堆肥は無償で提供されている。 学校関係者、市民等を対象にしたフォーラムを開催している。 企業等との連携・協働 【資金協力】 【人材協力】 生産者(NPO法人札幌農学校倶楽部)、地域の方々(教員OB、農業経験者等) 【情報協力】 【その他の協力】 堆肥(株式会社ばんけいリサイクルセンター) 市民・企業等が参加しやすい環境づくり							

平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	1-2-1	事業名	さっぽろ学校給食フードリサイクル			
評価(成果)			課題			
<p>重点校の取組では、教材園を活用するなど、様々な体験活動にも取り組んだ結果、児童生徒に、ものを大切にする心が育まれ、給食の食べ残しも12%から6%に減少した学校もあり、成果が上がっている。また、保護者の関心も高い。</p> <p>さらに、地産地消や食の重要性に対する理解を深めるため、札幌市内の農家がリサイクル堆肥で栽培したレタスを小中学校に提供したところ、使用した学校ではフードリサイクルの仕組み地産地消について指導し、子どもたちの関心が高まった。</p>			<p>リサイクル堆肥を使用して栽培した作物の種類や提供回数の増</p> <p>さっぽろ学校給食フードリサイクルの仕組みやリサイクル堆肥を使用して栽培した作物を教材として活用する学校の増</p> <p>生ごみ回収校の増</p>			
今後の事業の予定・方向						
<p>先行事例を蓄積する重点校のほか、教材園で栽培した作物を学校給食で使用するなど、栽培活動実践校での実施にも取り組む。重点校での先行事例をまとめ、全学校で取組むための資料として整理する。なお、重点校については平成22年度を最終年度とする。</p> <p>また、全学校に学校給食の食材としてリサイクル堆肥を使用して栽培した作物の種類や量を増やしていく。</p> <p>さらに、広く市民の方々に、この取組みへの理解を深めていただくため普及啓発に取り組む。</p>						
事業費の推移						
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計
計画	事業費	-	-	-	-	-
	財源内訳					
	国・道支出金					
	市債					
予算	事業費	0	9,370	-	-	9,370
	財源内訳					
	国・道支出金	0	0			0
	市債	0	0			0
実績	事業費	83	-	-	-	83
	財源内訳					
	国・道支出金	0				0
	市債	0				0
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				-
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)						
(全体)						
[19年度]						
重点校支援(豆腐製造用具)、フォーラム会場費						
[20年度]						